

歴史・地域とつながる創立 150 周年記念プロジェクト

長岡市立表町小学校 教諭 水谷 徹平

キーワード：小学校，総合学習，PV 作成，プロジェクションマッピング，ポッドキャスト，音楽づくり

実践の概要

今年度、表町小学校（町校）は 150 周年を迎える。そこで、卒業生や地域の方から話を聞き、考えたことを発信したり、お祝いしたりする活動を自分たちで考え、5・6 年生の総合学習としてプロジェクト活動を行った。

1. 目的・目標

(1) ICT 活用の目的とねらい

地域の方や卒業生など、学校に関わる方がつながるようなプロジェクト活動を成功させるにはどうしたら良いかを横断的・総合的に考え、実現しようとする過程で、自己の生き方を考えた。卒業生を招いて伝統行事について当時の様子を聞きポッドキャストで配信したり、貴重な明治から昭和初期の写真データをスキャンして拡大印刷し、開設した町校歴史資料館に拡大掲示したり、2 度の戦災から立ち上がって引き継がれてきた町校の歴史を表現するプロジェクションマッピングを作成したりした。さらに、校歌と合わせて歌えるパートナーソングとして作詞・作曲した 150 周年記念歌を卒業生や地域の方、全校児童でオンラインで大合唱することを目指した。また、レーザー彫刻機を用いて自分たちのデザインしたロゴやメッセージでオリジナルグッズを制作した。コロナ禍でも学校に関わる方とつながることができるよう表現や発信、制作活動を行う中で、情報活用の実践力を培うとともに、互いにかかわる中で誤解なくつながることができるよう情報化社会に参画する態度を育むことを目指した。

(2) 実践の特長・工夫

総合的な学習の時間として、自分たちの学校について調べたり、学校に関わる方とつながるプロジェクト活動を成功させようとしたりする中で、ICT を活用するとコロナ禍でもつながることができること（ポッドキャスト配信やオンラインでの合唱）、データをアーカイブにすると恒久的に残ると共に再利用できること（古いフィルムや写真のスキャンと、解説を入れた拡大掲示）、画像や映像・音などを使って様々な表現ができること（動画編集ソフトを用いたプロジェクションマッピングやプロモ-

ーションビデオ制作と高輝度プロジェクタによる投影、レーザー彫刻機を使ったオリジナルグッズを制作）などを経験から実感した。子どもだけではできないようなプロジェクトを成功させるには、子ども同士の連携や協働が不可欠である。150 周年記念式典で各プロジェクトについて発信し、歴史資料館での企画展開催、オリジナルグッズ販売を行う中で、地域の方や卒業生など、学校に関わる方との絆を深める予定である。

2. 実践内容

2.1 卒業生を招いたポッドキャストでの配信（写真 1）

「町校チャンネル」という子ども発のポッドキャスト番組を作成した。第 1 回は大正期から続き、5・6 年生が取り組む伝統行事「海の学校」について、10 年前に海で 2,000m を遠泳した卒業生を招いて当時の様子を聞き、録音した。10 年前の海の学校も、今とほぼ同じ形で取り組んできたことが分かった。「私も泳げなかった。練習はすごくつらかったけれどみんなでやれてよかった。達成感がすごい」「決めたことは最後までやるのが大切。一生分の宝ものになる。自信を持って、諦めないで！」と言葉をもらい、次週から始まる「海の学校」への取組に向けて、思いを新たにしたい。



写真 1 卒業生を招いたポッドキャストでの配信

2.2 写真データをスキャンして拡大印刷し、開設した町校歴史資料館に拡大掲示（写真 2）



写真 2 写真データをスキャンして拡大印刷し、開設した町校歴史資料館に拡大掲示

150 年前に、戊辰戦争の傷が残る中、米百俵の精神で学校が創立されたこと、明治天皇や昭和天皇の行幸、大正期の「海の学校」の様子、太平洋戦争で町校児童が 100 名以上亡くなったことなど、明治から昭和初期の写真をもとに知った。貴重な写真を永年保存するためにスキャンし、デジタルアーカイブにするとともに、解説文と合わせて歴史資料館に展示した。

2.3 150 周年記念歌の作詞・作曲と合唱（写真 3）

校歌と合わせて歌えるパートナーソングとして 150 周年記念歌を作詞・作曲した。ピアノを中心に作曲し、動画に撮って何度も修正しながら完成した。KAWAI スコアメーカーで MIDI 音源化し、全校や学校に関わる方に周知した。歌っていただいたものを動画撮影して、動画を合体させた大合唱を町校歴史記念館で披露した。



写真 3 150 周年記念歌の作詞・作曲

2.4 町校の歴史を表現するプロジェクションマッピング・PV 作成（写真 4）

戊辰戦争、太平洋戦争の 2 度の戦災の焼け野原から立ち上がり、米百俵の精神で学校創立されたこと、長岡空襲で表町小学校の児童が 100 名以上亡くなってしまったこと、復興と平和祈願を願って JRC の精神を引き継ぎ、「海の学校」や「山の学校」、鼓笛パレードの活動が自主自立の精神と共に伝統として引き継がれてきたことを表すプロジェクションマッピングを作成している。動画編集ソフトで赤く燃え上がる CG や米百俵を運ぶ武士団、学校の創立と空襲などを影絵で表現し、校歌や記念歌などを BGM として使用した。150 周年記念式典に合わせ、グラウンドから 10,000 ルーメンのプロジェクタ 2 台を使って、校舎に投影して披露できるよう準備をしている。



写真 4 プロジェクションマッピング・PV 作成

また、各プロジェクトの内容を説明するプロモーションビデオを作成し、記念館などで流している。

2.5 レーザー彫刻機を用いたオリジナルグッズを制作

レーザー彫刻機を用いて自分たちのデザインしたロゴやメッセージでオリジナルグッズを制作した。学校のオリジナルキャラクター「みゆきん」や校章、「不撓不屈」、「150 年のその先へ」といったキャッチコピーを配し、自分たちがデザインしたものを、タブレットを介してコースターやスプーン、マスクなどにレーザー彫刻した。町校歴史記念館にて 150 円で販売し、お祝いをする予算にする予定である（写真 5）。



写真 5 オリジナルグッズを制作

3. 成果

各プロジェクトの話合いや情報共有には、Jamboard や Classroom が使われ、意見やアイデア募集には Google フォームが用いられた。解説文など共同編集が必要なものも GoogleApps で時間短縮が見られた。学校に関わる方とつながろうと子どもだけではできないようなプロジェクトを成功させるために ICT を活用した表現・制作を行う中で、自然に情報活用能力が涵養された。また、写真の解説文や動画などで誤った情報を流すことがないように、制作者・発信者の責任を考えての表現を行ったり、キャラクターグッズがもし改変されたらどう感じるかを考えて著作権上気を付けなければいけないことを実感をもって考える中で、情報化社会に参画する態度が育まれた（写真 6）。

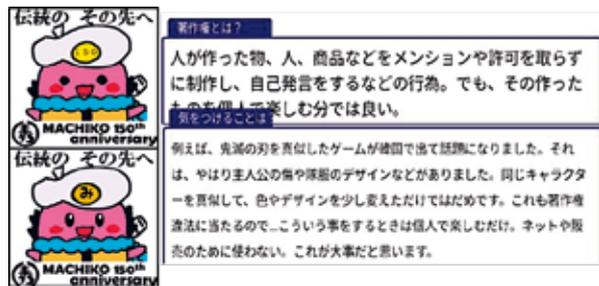


写真 6 著作権上の留意点を考える